

11 番（小川義昭君）

本市での幼児による口腔崩壊が深刻な問題でないことに安堵したわけでございます。それでは次に、歯科健康検診の年齢拡大についてお伺いいたします。

歯と口腔の健康に関連して、歯周病が糖尿病などの疾患に大きく影響する怖さ、そして、全身の健康のためにも歯周病の予防・治療が重要であることなどを申し述べてまいりました。

歯周病は、日本人の40歳以上の約80%がかかっている病気です。

本市では、今年度より歯周疾患検診事業として、当該年度で40歳のみを対象に無料での歯周病検診を始めていますが、歯科保健の分野では、生涯にわたり自分の歯を20本以上保つことにより健全なそしゃく能力を維持し、健やかで楽しい生活を過ごそうとする8020運動が推進されています。

8020運動とは、平成元年に当時の厚生省と日本歯科医師会が推進した80歳になっても20本以上自分の歯を保とうという運動です。20本以上の歯があれば食生活にほぼ満足することができると言われていています。そのため、生涯、自分の歯で食べる楽しみを味わえるようにとの願いを込めて、この運動が始まりました。

本市の成人歯科検診が40歳以上を対象としているのは、一般的にこの歯周病にかかりやすいのが40歳以上という調査によりますが、8020推進財団が示すデータには、15歳から24歳の70.3%の歯茎に炎症が見られるとしており、歯周病を決して中高年層の病気とは考えず、若いうちからの予防が肝要であることは言うまでもありません。

歯周病の予防には40歳以上から口腔環境を清潔に保つ管理が不可欠であり、本市においては、これまで推進してきた成人歯科健診事業のさらなる充実が望まれます。よって、歯科健康検診を現在の40歳健診のみではなく、市民の20歳から80歳までを対象に10歳刻みで実施するよう対応の強化を求め、歯周病予防強化対策のさらなる充実を要望するものであります。御見解をお伺いいたします。